

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年10月9日

【評価実施概要】

事業所番号	4070001211
法人名	医療法人 陽明会
事業所名	グループホーム つくし
所在地 (電話番号)	京都群みやこ町勝山松田1133 (電話) 0930-32-5523
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年9月2日

【情報提供票より】(平成 19年 8月 9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	10人, 非常勤 7人, 常勤換算 13.2人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独	新築 / (改築)
建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,500 円	その他の経費	有
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要 (平成 19年 8月 9日現在)

利用者人数	16 名	男性	5 名	11 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名	
要介護3	3 名	要介護4	2 名	
要介護5	0 名	要支援2	1 名	
年齢	平均 87 歳	最低	63 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小波瀬病院・御所病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは、周囲に静かな住宅が並びその一角に大きな邸宅を増改築した建物で、昔のままの外装を残している。母体が医療法人であり病院、老人保健施設、訪問看護、通所介護など医療と福祉が一体化され、連携が図られている。2ユニットであり、それぞれが広く明るいリビング、暖かい日が差しこむウッドデッキ、そして日本庭園が癒しの空間となっている。リビングには利用者達が集い、それぞれが独自の時間を楽しんでいる。グループホーム独自の業務マニュアルが細かく作成され、介護計画には、個々の能力、意欲、趣味をとり入れて、心身機能維持、改善に向けた支援が行われている。利用者や職員、職員同志の人間関係も良好で、利用者と共に過ごす生活空間を大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回調査の改善項目であった地域との交流については、取り組みに努めている。
	②	自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は、全職員に対してサービス評価の実施にあたっての評価の意義や目的を説明し、全員に理解してもらっている。実施後の評価、改善策には、運営者、管理者、職員全員で取り組みサービスの向上に努めている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部:4, 5, 6) 2ヶ月に1回の運営推進会議に、家族、町役場の職員、施設長、職員が参加し、現在の状況や課題を提出し、参加者からの意見や評価を日々の支援に活かし、サービスの向上や改善に取り組んでいる。民生委員、区長へは参加を依頼中である。家族には議事録を開示し、全職員には定例会議や朝のミーティングで報告、意見交換を行っている。改善策や制度の理解について町へ相談に出かけたり、月に1回介護相談員に来ていただいて、利用者や職員の相談に応じてもらいサービスの質の向上に努めている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) ホーム日より2カ月に1回の家族会等でホーム内の様子や職員の異動を報告している。家族の訪問時には、全職員が利用者個々の健康状態や家族が求める情報について丁寧に答えられるようにしている。玄関には意見箱を設置している。家族からの意見や思いを職員全員が真摯に受け止め、運営に反映させている。
重点項目	④	幼稚園を慰問したり、隣接のデイサービスや施設との交流を通して連携を深めることに努めている。散歩の時には積極的に近隣の人達と会話を交わし、地域に密着した交流に努めている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が「その人らしく」生活していくことの大切さを、全員の職員が認識し実現するために、独自の理念を掲げているが、地域密着型サービス以前のものである。	○	利用者が地域の中で自分らしく、また、可能な限り自立した生活が送れるように、職員全員が日々の活動の中で、確認しながら支援を行なっているが、理念の中に地域との密着性が掲げられていない。地域との関係性を強化する支援を理念に掲げることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、全職員と理念を唱和し、理念の大切さを共有し自覚している。玄関や事務所内に掲示し、常に意識化するようにしている。職員は理念の大切さを、自身の言葉で語ることができている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所とは深い交流はないが、散歩のときなど会話を交わし、花を頂いたりしている。幼稚園を慰問したり、職員が地域の医療・福祉関係のところで講師をする機会などを通して、近隣との交流を深めるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、月1回の定例会議、朝のミーティングの機会に自己評価や外部評価の実施の意義・目的を説明し、全職員と共有するようにしている。実施に際しての事前説明、実施後の評価、改善策などを全職員に説明し、意見交換を行っている。再確認のために資料を回覧し意見が反映できるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議に、家族、町の職員、施設長、職員が参加している。民生委員、区長へは参加を依頼中である。現在の状況や課題を提出し、参加者からの意見をサービス向上に反映させている。家族や職員には議事録等を開示している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回開催される地域のグループホーム連絡協議会には積極的に参加している(町職員の参加あり)。また、保険者へ改善策や、制度の理解について相談に出かけたり、月に1回、町の介護相談員に来ていただいで、利用者や職員の相談に応じてもらいサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	契約時、利用者や家族に地域権利擁護事業や成年後見制度について説明し、理解していただくようにしている。玄関先にも資料を置いていつでも見られるようにしている。職員には、それらのマニュアルに添って研修を実施し、必要なときの支援が行えるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームだよりや2カ月に1回の家族会等にはホーム内の様子や、職員の移動などについて明確に報告するようにしている。また家族が訪問されたときには、全職員が利用者個々の健康状態や家族が求める情報について丁寧に答えられるようにしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族が訪問された時、どんな意見でも出せるような環境を整え、出された意見に対して全職員は真摯に受け止め、運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の病院やデイサービスでの異動はあるが、利用者のことを考慮し最小限にとどめるように努めている。やむを得ず退職する場合は、事前に家族や利用者に不安を与えないように伝えている。また異動は、家族会の際に家族にお知らせしている。		
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、男性・女性、年齢に左右されず、認知症介護者としての適性を重視している。採用後は、職員の資質が十分に発揮して介護ができるよう環境を整えるようにしている。研修への参加や意見に対して貴重な意見として受け止め、対応するように努めている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内での人権学習には、利用者の日常生活に支障がないように参加している。職員全員で、人間の尊厳とは何かを常に意識化し、日々の活動の中での行動や言語など十分反映するように教育を行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では、参加状況を鑑みて同じ研修内容を2回実施し、全職員がトレーニングを含めて共通認識をし、質の向上の確保ができるように努めている。また、法人では外部研修参加が規定されており、積極的な参加を促し、伝達研修をしてスキルアップに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月1回実施される1市2町とのグループホーム連絡協議会に参加し情報交換を行っている。交流が深まることで色んな意見の交換がなされ、それが運営に活かされ、サービスの向上に反映している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の希望があれば、昼間の時間帯の体験入居ができるように受け入れ体制を整えている。ホーム内で日中過ごしていただき、利用者や職員と接することで徐々に馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴の中で培ってきた得意とするところ、野菜の切り方、包丁の持ち方、縫い物などを職員が教わりながら共に過ごす時間を大切に、利用者支え合う関係を築いている。		
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の初回アセスメントで思いや、意向の把握をしている。入居後も毎日の生活の中で、発せられた言葉や態度に注意して希望や意向の把握に努め、気がついたときは、その日のうちにカンファレンスを行い、本人本位の検討を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会や家族会の時に家族から要望や意見をいただき、介護計画に反映させている。また、利用者の日々の言葉や、態度の中からの気づきを日々行っているミニカンファレンスの中で全職員が共有し検討を行い、介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書には目標期間が記載され、モニタリング、評価が行われ、見直しがされている。見直し期間前に変化が生じた場合は、カードックスや連絡ノートに記載し、全職員が共有できる仕組みをもっており、その都度見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列のデイサービスとの交流や、地域の他施設との交流を利用者が楽しみにしている、近隣のグループホームとの風船バレー大会等、入居者の要望に応じて対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列の病院をかかりつけ医としている入居者が多い。系列病院への受診は職員が行っている。利用者や家族が他病院を希望した場合は、原則家族による受診をお願いしている。受診結果の報告は受けている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームが医療連携加算を取っており、入居時にその説明をしている。看取りをする場合の同意書があり、重度化した場合や、終末期のあり方については、できるだけ早い段階から家族やかかりつけ医と話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに、プライバシーを損ねるような声かけや対応は行われておらず、記録等の個人情報は事務所内にてきちんと管理されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に、利用者主体の対応がなされている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	系列病院で一括調理されているが、利用者の状況に合わせた調理方法がなされ、楽しく食事ができるよう工夫がされている。食事の後片付け等は職員と利用者がお互いに会話を楽しみながら行っている。週1回は、ホームで利用者と一緒に手作り調理を行っており、利用者は準備や後片付け等、一人ひとりの自分の力を活かしながら参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は概ね午後13時30分から16時位の間と決め、1日おきの入浴を行っているが、毎日沸かしている。毎日入浴を希望される利用者には毎日入浴を行っており、また入浴拒否のある利用者には、タイミングをみて声かけし、入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握しており、カラオケ、囲碁、縫い物、マージャン、調理等、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全員で一緒に外出する事は難しいが、買い物、ドライブ、花火大会、散歩やおやつを買いに出かけたりしている。最近、近所に店ができたので、散歩を兼ねて食事に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前は公道で車の通りが多く危険なため、玄関は鍵を掛けている。家族には説明をし理解を得ている。部屋の鍵は掛けられていない。広めのウッドデッキには自由に入出入りできるようになっている。外にできるだけ出て行き、ストレスが溜まらないようにしている。	○	玄関前は交通の事情から危険ということで家族にも了解を得ているが、利用者が外に出たくなる場面や理由、行き先などを知ることが大切であるので、本人・家族等とも相談して、安全に過ごせる工夫が望まれる。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通報体制のシミュレーションも行われフローチャート、指示系統、緊急マニュアル等も整備されており、年2回の避難訓練も行っている。夜間設定の避難訓練もしている。隣接のデイサービスとの大掛かりな消火訓練を行い、消防署の講習会も受けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に管理されたメニューを系列病院で一括調理している。食事摂取票にて食事摂取量を記録している。水分量の観察が必要な利用者は水分摂取量を記録している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い豪邸を改装しているため、所々に昔懐かしい温もりある雰囲気がある。食堂からはウッドデッキへ自由に入出入りできる。部屋の光はカーテンやレースカーテンで調節できる。特に不快な音もなく食堂の椅子、ソファ、ウッドデッキ等思いおもいの場所で居心地よく過ごせる工夫がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれの居室は、家族や利用者と相談のうえ、自分の好きなものが持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>		